



神事の型——遊と聖

■天蓋引き(上)

天蓋はまた降居ともいって非常に重要な神事です。天蓋を遊ばすという表現もあり、それがゆれ動くさまは神が遊んでいるようだといわれます。このとき突然神がかりがおこった例もあるように、この天蓋引きは神降ろしの一つの作法であつたろうと私は推察しています。

■綱貫(下)

綱貫はまた注連起しもいってこれも重要な神事です。花取りと呼ばれる役の神主が神歌をうたいながら龍頭を持ち、その他の神主が胴体をもって舞殿の中をぐるぐると練り廻ります。神の降臨を願うものです。このあと蛇体を舞殿の柱に対角線状に張り渡し、神主一同が六所舞というのを行い、次いで御綱祭といって神主および託大夫たちで神歌をうたいながら激しく蛇体を揺り動かします。多くはこの時に託太夫のうちの人に神がかりがこります。